

プログラム

13:30~13:40

開会挨拶

森田 朗 (国立社会保障・人口問題研究所 所長)

13:40~14:00

基調講演 1 「人口減少日本—女性と家族の変容—」

鈴木 透 (国立社会保障・人口問題研究所 人口構造研究部長)

14:00~14:30

基調講演 2 「逆機能を解消して機能強化を」

大沢 真理 (東京大学社会科学研究所 教授)

14:30~14:40

休憩

14:40~15:40

パネリスト講演

パネリスト

川口 章 (同志社大学政策学部 教授)

「労働市場における男女格差の現状と政策課題」

大石亜希子 (千葉大学法政経学部 教授)

「セカンド・シフトを超えて：家庭内労働を巡る諸側面」

阿部 彩 (国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部長)

「女性のライフコースの多様性と貧困」

林 玲子 (国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長)

「日本の女性と移動～国内人口移動と国際人口移動」

15:40~15:50

休憩

15:50~17:20

パネル討論

基調講演者とパネリスト

モデレーター

森田 朗 (国立社会保障・人口問題研究所 所長)

17:20~17:30

閉会挨拶

金子 隆一 (国立社会保障・人口問題研究所 副所長)

厚生政策セミナー

国立社会保障・人口問題研究所は、内外の人口ならびに社会保障をめぐる問題について議論し、理解を深める場として、毎年1回テーマを決めて「厚生政策セミナー」を開催しています。前回までのテーマは以下の通りです。

第1回「福祉国家の再構築」

第2回「少子化時代を考える」

第3回「福祉国家の経済と倫理」

第4回「21世紀の家族のかたち」

第5回「アジアと社会保障」

第6回「地球人口100億の世紀」

第7回「こども、家族、社会」

第8回「人口減日本の選択」

第9回「社会保障制度を再考する」

第10回「超少子高齢・人口減少社会の課題」

第11回「社会保障と日本経済」

第12回「超少子化と家族・社会の変容」

第13回「新しい社会保障の考え方を求めて」

第14回「長寿革命」

第15回「暮らしを支える社会保障の構築」

第16回「東アジアの少子化のゆくえ」

第17回「地域の多様性と社会保障の持続可能性」

第18回「国際人口移動の新たな局面」

お問い合わせ

第19回厚生政策セミナー事務局 (株式会社成光社内 平日 9:00~19:00)

TEL: 03-6661-7516 FAX: 03-6661-7517 E-mail: ipss19@seiko-sha.co.jp URL: <http://www.ipss.go.jp/seminar/>

第19回 厚生政策セミナー / The 19th IPSS Annual Seminar

多様化する女性の ライフコースと社会保障

Women's Diversifying Life-Course Patterns and Social Security

～人口減少社会を支え続ける社会保障の挑戦～

- Social Security System for a Sustainable Society in the Era of Population Decline -



日時

2014年 **10月31日(金)**

13:30 ~ 17:30

会場

千代田区立日比谷図書館 地下1階
日比谷コンベンションホール
東京都千代田区日比谷公園内



主催:  国立社会保障・人口問題研究所
National Institute of Population and Social Security Research

多様化する女性のライフコースと社会保障

～人口減少社会を支え続ける社会保障の挑戦～

Women's Diversifying Life-Course Patterns and Social Security
- Social Security System for a Sustainable Society in the Era of Population Decline -

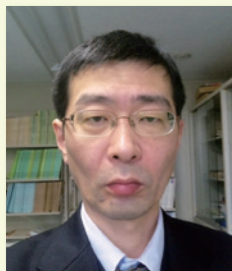
開催の趣旨

当研究所は平成26年から28年の3か年に、人口問題研究所設立75周年（1939年8月設立）、社会保障研究所設立50周年（1965年1月設立）、国立社会保障・人口問題研究所設立20周年（1996年12月設立）を迎えることから、これらを記念するセミナーを今年から3回連続で、共通するテーマを『人口減少社会を支え続ける社会保障の挑戦』と掲げて行うこととした。去年から動画配信を開始し、これまで多くの方々に見ていただいた。今年からソーシャルメディアの活用を開始し、みなさんの活発な議論の場を醸成する機会をつくっていききたい。

初回にあたる平成26年度は、サブテーマに「多様化する女性のライフコースと社会保障」を掲げ、人口の半分を占めながら、政策の表舞台から取り残されてきた女性と女性を取り巻く環境の変化について焦点をあてたい。個々の女性の意思や選択が尊重され、多様なライフコースの選択を可能とする社会の実現を目指すのであれば、日本社会における女性と男性の人生のあり方を見つめ直し、個々人が家族形成と就労を無理なくライフプランの中に位置づけることのできる生き方を可能にする必要があるだろう。こうした社会の実現のために、今後どのように社会を変えていくべきか、そのために「挑戦」しなければならない課題が何であるかを本セミナーでは明らかにしたい。

- 稼働年齢層の女性の就労率は増えたが、子育て時期に就労を中断するM字型就労曲線は依然として存在する。日本の女性たちの生き方の自由な選択を阻んでいるものは何か？
- 所得格差の拡大により最も厳しい状況にある貧困世帯は、母子世帯や単身高齢女性世帯だといわれている。日本の社会保障制度は、制度が目標とした所得再分配機能を十分に果たしているのか？
- 女性のライフコースは多様化したとはいえ、出産育児を機に就業を中断した女性もどっていき就労の場や雇用条件は依然として非正規が主流である。非正規雇用が女性の人生設計にどんな影響をあたえているのか？
- ワークライフバランスは、男女とも就労時間の短縮を実現し、女性が働きやすくすることと男性が家庭責任をより平等に担いやすくすることによってはじめて実現できる。そのような社会を築いていくには、日本社会の何をどのように変えていかなければならないのだろうか？

基調講演



鈴木 透 (国立社会保障・人口問題研究所 人口構造研究部長)

北海道大学文学修士、カリフォルニア大学バークレー校人口学博士。国立社会保障・人口問題研究所国際関係部、企画部室長などを経て2011年より現職。専門は人口学および社会学、特に結婚、出生、世帯形成・解体に関する人口学的研究。また東アジアにおける低出生・高齢化問題についても長く研究を続けている。主要著書に *Low Fertility and Population Aging in Japan and Eastern Asia* (2014年)、『現代人口学の射程』(ミネルヴァ書房、2007年共著)、『東北アジア地域における経済の構造変化と人口変動』(明石書房、2006年共著) など。



大沢 真理 (東京大学社会科学研究所 教授)

経済学博士(東京大学)、専攻は社会政策の比較ジェンダー分析。日本学術会議会員。ベルリン自由大学、ボッフム大学、アジア工科大学院、ハンガ先端研究所などで客員を務める。東京大学社会科学研究所全所的プロジェクト研究「ガバナンスを問い直す」リーダー。近著に、『ジェンダー社会科学の可能性 全4巻』(辻村みよ子と共編)(岩波書店、2011年)、『生活保障のガバナンス—ジェンダーとお金の流れで読み解く—』(有斐閣、2013年)。

パネリスト



川口 章 (同志社大学政策学部 教授)

1958年、香川県生まれ。京都大学経済学部卒業、オーストラリア国立大学 Ph.D. (経済学)。メルボルン大学経済商学部講師、追手門学院大学経済学部教授などを経て、現在、同志社大学政策学部教授。研究テーマは、労働市場におけるジェンダー格差、ワーク・ライフ・バランス。主な著書に『ジェンダー経済格差』(勁草書房、2008年)、『日本のジェンダーを考える』(有斐閣、2013年)。



大石亜希子 (千葉大学法政経学部 教授)

慶応義塾大学法学部法律学科卒、一橋大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。学術博士(千葉大学)。日本経済研究センター、国立社会保障・人口問題研究所を経て現職。専門は労働経済学、社会保障論。最近の論文は "Do Part-time Jobs Mitigate Workers' Work-Family Conflict and Enhance Well-being? New Evidence from Four East-Asian Societies", *Social Indicators Research*, 1-21, 2014 (共著)。



阿部 彩 (国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応用分析研究部長)

タフツ大学フレッチャー法律外交大学院修士号・博士号取得。1999年より国立社会保障・人口問題研究所に就任、現在、社会保障応用分析研究部長。国家戦略室フロンティア分科会幸福のフロンティア部会長(2012年)、厚生労働省社会保障審議会臨時委員(生活保護基準部会)(2011～)など歴任。研究テーマは、貧困、社会的排除、社会保障、公的扶助。『生活保護の経済分析』(共著、東京大学出版会、2008年)にて第51回日経・経済図書文化賞を受賞。主著に『子どもの貧困Ⅱ—解決策を考える』(岩波書店、2014年)、『子どもの貧困—日本の不公平を考える』(岩波書店、2008年)。



林 玲子 (国立社会保障・人口問題研究所 国際関係部長)

東京大学保健学修士・工学士(建築)、パリ大学修士、政策研究大学院大学博士(政策研究)。セネガル保健省大臣官房技術顧問、東京大学 GCOE「都市空間の持続再生学の展開」特任講師などを経て2012年より現職。人口学、保健学、開発学に関する研究に従事。主要著書に『人口移動の国際比較—日本の移動指標を用いたモデル人口移動性向構築の試み』(2014年)、『世界の宗教と人口』(原書房、2013年共著)。

モデレーター



森田 朗 (国立社会保障・人口問題研究所 所長)

1976年東京大学法学部卒業、千葉大学法経学部助教授、1994年より東京大学大学院法学政治学研究科教授、2004年同公共政策大学院院長、2012年学習院大学法学部教授、東京大学名誉教授。2014年4月より現職。厚生労働省中央社会保険医療協議会会長、専攻：行政学、公共政策。著書等：『許認可行政と官僚制』(岩波書店、1988年)。『会議の政治学』(慈学社出版、2006年)。『制度設計の行政学』(慈学社出版、2007年)。